



【学校教育目標】

《 自分の良さを発揮しながら、たくましく生き抜くことができる
ふるさと大好き 秋穂っ子の育成 》

いつもの年とすれましたが、1年の折り返しです。

校長 村田 利樹

「あいおリンピック2020」には、ご家族の皆様にも多数ご来校いただき、誠にありがとうございました。名簿で数えてみると、実に329名の方にご来校いただいたことがわかりました。保護者、ご家族の皆様や地域の皆様も、たいへん楽しみにしておられたんだということを感じました。コロナ感染対策に伴いお願いした、来校者名簿の記入や健康チェック、検温等へのご協力はもとより、事前の刈草集めや運営補助にご協力いただいたPTA役員と各部の皆様方に、あらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

終わりのあいさつで引用した「いい加減なら言い訳をする 中途半端なら愚痴を言う 一生懸命なら知恵が出る」の言葉のとおり、この実施に向けては、競技・演技の種目、プログラムの決定、練習や運営の方法、感染対策などなど、教職員だけではなく、子どもも一生懸命に知恵を絞り、創り上げてきました。通常と比べ、時間もプログラムも、昼の弁当のお楽しみさえも削らざるを得ませんでした。それを差し引いても充実した半日ではなかったかと思えます。

たくさんのご声援をありがとうございました。



ハブリカ?



力強いソーランでした。



今年もエイサーができました。



朝夕の冷え込みも厳しくなり、子どもたちの冬服への切換もずいぶん多くなりました。でもまだ中にはポロシャツだけ、半袖でがんばっている子どももいます。やせがまんは禁物ですが、がんばれる強い心と身体があれば、続けてほしいと思います。引き続き、コロナウィルス対策とインフルエンザ対策は入念にお願いをします。

それに伴って、毎年のこと気になるのが、ポケットに手を入れて歩く姿です。安全のためにポケットに手を入れて歩かないことを学校で指導しているのはご存じのことと思いますが、ご家庭でもご指導をお願いします。手袋の着用は解禁日はありませんので、ご家庭で手袋をご準備いただければと思います。



手がポケットに入る子どもには、手袋をしておいで、と毎朝正門で声をかけています。

.....
以前ご紹介したことがあるエピソードですが、あらためて紙面に載せます。

過去、山間部の学校に勤めていたころ、雨の日も雪の日も、1年を通して靴下をはかず素足と半袖シャツ1枚で登下校し、毎日を過ごした子どもを担当しました。当時、真冬には20cmは雪が積もることもある地域でしたから、「靴下をはいて上着を着たら。」と、いくら勧めても「いえ、大丈夫です。」とにこやかに答えました。「ほくは剣道をしているので、靴下をはいていると練習の時に変な感覚になる。薄着は寒稽古でも慣れてるから1年中1枚のシャツで大丈夫。」とも言っていました。確かに彼は一度も風邪を引いたことがありませんでした。6年生まで彼の言葉どおり薄着と素足を続け、卒業していきました。(卒業式はさすがに上着着用、白靴下をはきましたが、それはルールを尊重する心も併せ持っていたからでしょう。ただ、見送りの時には脱いでいたのが彼らしかったのですが。)強い心の持ち主だなあと、感心したことを覚えています。

この時期になると、なぜか思い出す30年近く前のことです。そんな彼もすでに30代後半です。

.....
本格的に学校が始まったのが5月末とすると、ちょうど今が1年の折り返しと考えることができます。(いつもの年とは1ヶ月ずれています。)12月の「持久走大会」に目標を切り換えた子どももいることでしょう。日々の積み重ねが子どもたちの成長の大きな糧になると信じ、指導を重ねてまいります。